

# 尼崎市総合文化センター 美術ホール

## 「柳原良平 アンクル船長の夢」展

開催期間：平成29年5月20日（土）～平成29年7月9日（日）



会場入口



様々な船舶が描かれた船の絵コーナー



各船舶の役割を解説するパネルや船舶のぬりえによる海の学びコーナー



人と船の6千年のかかわりを切絵で簡潔に表現した大作（絵本の原画）で歴史を学ぶ

### 【企画展の内容・目的】

■ 船好きとして知られ、「海と船と港」をテーマとする作品や文章を数多く発表した柳原良平（1931-2015）の活動を、大阪市立中央図書館所蔵と横浜みなと博物館所蔵の作品・資料を中心に総合的に紹介。柳原の没後、関西初となる回顧展として開催し、柳原の創作活動に関するエピソードと作品に描かれた船や港を紹介することを通じて、「海と船と港」への関心を高め、海と私たちの暮らしとの繋がりについて考えるきっかけを提供する。

■ 柳原が得意とした切絵をはじめとし、油彩画やスケッチ、リトグラフ、絵本原画など美術作品に加え、デザイナーとして携わった出版物、旅行先で集めた船の模型や船の装飾品、玩具など、「海と船と港」を愛した柳原自身の多岐にわたるコレクションもあわせて展示し、生涯にわたり海事普及に努めた柳原の活動を紹介する。

■ 高く評価されたデザイナーである柳原良平が中学・高校生時代を過ごした、ゆかりの地である尼崎市で開催することにより、文化的側面から尼崎市が標榜する「シビックプライドの醸成」に努める。また、尼崎市では臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、環境共生型のまちづくり（尼崎21世紀の森構想）をめざしており、柳原良平の描く「海と船と港」の絵の鑑賞や様々な連携事業を通して、臨海都市・尼崎の魅力、そして地元の海についてより深く知ってもらおう機会とする。

# 1. 企画展示の内容

- 開催期間：平成29年5月20日（土）～平成29年7月9日（日）
- 開催場所：尼崎市総合文化センター 美術ホール
- 入場者数：4,306人



尼崎市総合文化センター 外観



企画展会場 入口



船の画家を志した中学～高校時代の資料



柳原自作の模型「大阪商船 ぶらじる丸」

第1章「船の画家を志す」では、幼少時代から船を描いたり模型を作ったりしながら船への理解を深め、高校時代には「船舶同好会」を結成して活動するなど、柳原にとって船や海についての関心が創作の原点であったことを紹介した。柳原が当時発行していた架空の船舶会社の自筆機関誌や模型、スケッチ等の作品を通して、戦後日本の船や港について学ぶことができ、特に船会社から取り寄せた設計図をもとに作成された精巧な模型は多数の来館者の関心を集めた。

また、各章ごとに設置した「アンクル船長の船の豆知識」クイズは、「船の名前に「丸」がついているのはなぜか」など、作品の中に出てくる船の名などについての理解を深める役割を果たし、より海や船への親しみを持てるよう工夫したところ、好評であった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。





商業デザイナーとして活躍を始めた頃の広告や書籍



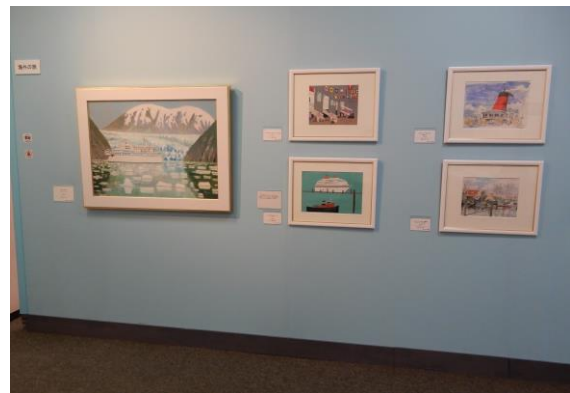
漫画家、アニメーション作家としても活躍

第2章「デザイナーになる」では、柳原がデザイナーとしてデビューし人気を博していく過程を、三和銀行のアルバイト時代に作成した案内パンフレットなどから始まり、寿屋（現・サントリー）に入社し担当した新聞広告やPR誌やテレビCM、仲間と独立して設立したデザイン会社の仕事など幅広い作品を通じて紹介した。代表作となった「アンクルトリス」をはじめ、イラストやアニメーションが好評であった。

「アンクルトリス」のキャラクターは、その後、柳原が船の画家として活躍するにあたって「アンクル船長」となって登場し、多くの人を魅了することになったため、商品キャラクターを超えた生涯にわたる柳原の代表作となったことや、また新聞広告用に考案した切り絵の手法がその後のイラストや絵本の切り絵に応用されていくことなど、この時期は柳原のオリジナリティが確立された時期であったことを紹介した。



船の画家としての創作活動を紹介



油彩・水彩作品などには、船で旅した世界の港が様々な技法で表現されている



多数執筆された船や港を紹介する本



「アンクル船長の館」「なにわの時空館」に関する作品

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



ポスターカラーで色彩豊かに描かれた働く船たち（絵本の原画）



世界中を旅しながら集めた各国の船の玩具

**第3章 「船の画家になる」**では、企業から独立して仲間たちと会社を設立した後の柳原の仕事を紹介した。デザイナー、イラストレーターとして活動を続けながら、柳原は若い頃から培ってきた知識と並々ならぬ愛情によって、船に関する創作活動に重心をおくようになった。自らの絵と文章による『船の本』（『第5船の本』まで）をはじめ、個展を開くために船の画家として柳原が描いた油彩・水彩・版画などによる多彩な船の絵、切り絵で表現した船の絵本の原画など、表現方法は多岐にわたるため、鑑賞者は親しみながら多くの船の絵に触れ、様々な角度から船の魅力を知ることができた。

また、柳原が名誉船長を務めた商船三井「柳原名誉船長ミュージアム」から選んだ様々な船の役割が学べる「船の博物館」コーナーや、ぬりえコーナー、絵本原画を観ながら絵本が読めるコーナーなどにより、楽しく船について学べるコーナーも設け、子どもから大人まで好評であった。さらに、柳原が蒐集した世界各地の船の玩具の展示により、鑑賞者は船の成り立ちや各国の船の違いなどを比較しながら学ぶことができた。

港湾都市である大阪市と横浜市に残されたこれらの多岐にわたる柳原の作品と関連資料の展示を通じて、柳原の長年にわたる海事普及に対する強い想いを伝えることができ、多くの鑑賞者が海について知り、親しむ機会を提供できた。



かつて豊かな漁場でもあった尼崎の魅力を知ってもらうため、江戸時代の古文書や近代の港の写真パネルを展示



現在の尼崎周辺の海を浄化するためワカメを育て、それを肥料にして菜の花を栽培する中学生の取組みを紹介

**第4章 尼崎の海を学ぼう** 工業の町のイメージが強い尼崎の海が、かつては豊かな漁場でもあったことなどを、古文書『尼崎産魚』などの展示と解説パネルにより、関心と理解を深めてもらうことができた。

また、現在の尼崎の臨海地域の取組みについて、市内の中学生「尼崎ネイチャークラブ」やNPO法人「尼海の会」が中心となり、市民、行政機関、大学、専門家、団体等が協働して活動を行っている海の水質浄化を通じて循環社会モデル作りの取組みや、尼崎臨海地域の特色である運河をクルーズして楽しみ尼崎の海への理解を深めてもらう「尼崎運河博覧会 うんぱく」の活動などを紹介し、市民、行政機関、大学、専門家、団体等と協働しながら取組み、海や運河を魅力あるものとするための活動を紹介し、尼崎の海に対する理解を深めてもらい、活動の輪を広げたり、足を運んでもらうきっかけをつくることができた。

### 【来館者の声】

- いろいろな船の絵がとても丁寧で精巧で、色合いが優しく、心に残るものがありました。
- タグボートまで描いているところに働く船への愛情を感じます。私も海事に関心を持ちつつけたいと思いました。また、日本が海に囲まれていることを、船の重要性を若い人に伝えたいと思います。
- 「ばいかる丸」のアニメーションより、船の歴史と日本の戦争の歴史が学べた。
- 船の歴史を表した絵本。最後が宇宙につながっているところを描いていて未来志向を感じた。
- 海からの贈りもの、物質や心の安らぎなど多くのことをいただいているとあらためて再認識できました。
- 尼崎は防波堤によって海と遮断されている。今回の展示会のように海に関心を持てるような催しものをもっとしてほしい。
- 尼崎港での循環のしくみの取組み。海をきれいにするのは、将来の漁業にもよいことだと思う。
- 世界の船を見れたのがよかった。いつか世界中の海に行ってみたくなりました。



## 2. 関連事業の内容

### 1. 講演会「柳原良平が描いた船と港」

【開催日時】平成29年5月20日（土）14:00～15:30

【開催場所】尼崎市総合文化センター 7階第2会議室

【講師】志澤 政勝 氏（横浜みなと博物館 館長）

【参加者数】46人

【活動内容・目的】

- 柳原の作品について、描かれた船や関連するエピソードなどを紹介することを通じて、「海と船と港」への関心を高め理解を深める。
- 柳原の活動における船や港との関わりについて、グラフィックデザイナー、イラストレーター、画家として船を描いただけでなく、エッセイや海事評論を通じて、また、海事普及に努める市民活動など、柳原の多様な面を学び、海と私たちの暮らしとの繋がりについて考えるきっかけを提供する。



横浜市の文化人として、海洋博物館をサポートする活動も行ったエピソードなども紹介された。



描かれた作品の詳細を解説していただくことにより、船や港についての理解を深めることができました。

柳原の多彩な活動について、少年時代から年代を追った詳しい解説を通して、参加者は柳原の活動に「船と港」が深く関わっていることを学ぶことができた。柳原が作家としてだけではなく、海事評論家として船舶関係の執筆を行うほか、市民活動家として「横浜市民と港を結びつける会」の活動を通じて海事普及に努めたことを、柳原と親交が厚かった講師からエピソードなども交えて紹介していただき、参加者が主体的に海と私たちの暮らしとの繋がりを考えるきっかけとなった。また、柳原が描いた「思い出に残る好きな船」や「病室から見た本牧ふ頭A突堤のコンテナ」など、船や港の詳細な解説を通して、柳原の生涯と船や港に対する想いを知る機会となった。

#### 【参加者の声】

- 柳原さんの歴史と作品の変遷がよくわかりました。
- 船をこよなく愛した良平先生の足跡がしのばれた
- 良平氏の船に対する思いがひしひしと伝わってきました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

## 2. ギャラリートーク

【開催日時】①平成29年6月11日（日）14:00～15:00  
②平成29年7月 2日（日）14:00～15:00

【開催場所】尼崎市総合文化センター 展覧会場内

【参加者数】①22人 ②30人

【活動内容・目的】

- 展示作品を前に、作品の変遷などをコーナーごとにわかりやすく解説。柳原と尼崎との関わりをはじめ、若い頃から晩年まで続いた船舶会社との交流や、柳原が船の絵や本に込めた海事普及への思いなどを紹介。また、開催地尼崎市の海との関わりを歴史を簡潔に紹介し、作品と資料を通じて、参加者が海洋国日本における「海と船と港」の役割について、また地域的な海との関わりを考えるきっかけを提供する。



船の画家を志した学生時代の作品と資料



長く住んだ横浜の港を描いた代表作



人と船の6千年の歴史を切り絵で表現した絵本原画の大作



イラストレーターや画家としてだけでなく、様々な活動を通して海事普及に貢献した活動を紹介

兵庫県立尼崎高校在学時代の柳原と尼崎の関わりから年代を追って解説。商業デザイナーとして活躍しながら、横浜に居住し船の画家として横浜港を中心として世界中を旅して描いた様々な船や港を描き、船の画家として長く活動するまでの長い画業を様々な展示作品と収集資料をエピソードとともに紹介。独自の切り絵の手法や油彩・水彩・リトグラフなど様々な技法による作品の魅力や、船の絵に込められた柳原の想いを鑑賞者に伝えることにより、柳原良平がどのようにして「海と船と港」の魅力を伝えようとしたかを解説し、作品への理解を深めてもらうことができた。

また、かつて漁場として栄えた尼崎の海の歴史を古文書や漁具などを通じて紹介するとともに、現在の尼崎の臨海地域の活動を紹介します。魅力ある地域になりつつあることを伝えることで、地域の海や運河を取り巻く諸問題やその解決策について理解し、考えてもらえるよう促した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



## 【参加者の声】

- 柳原さんが単なる船好きではなく、海事産業を見据えた広い視野で活動しておられたことを感じました。
- 説明員の話が素晴らしいです。とても勉強になりました。
- 海や船について、たくさんの作品があったことを学びました。
- 船に興味はなかったけれど、知れてよかった。海には歴史があると思った。
- 分かりやすかった。親近感がわいた。

## 3. ワークショップ「柳原良平の絵で海や船の絵本をつくろう」

【開催日時】平成29年6月18日（日）14:00～15:30

【開催場所】尼崎市総合文化センター 展示会場内

【参加者数】11人

【活動内容・目的】

- 展示作品を鑑賞しながら柳原の切絵による絵本の特徴を学び、切り絵を使った絵本づくりに挑戦する。
- 船を紹介する本、船旅の本、はたらく船の物語など、参加者の子どもたちが絵本のテーマを考えることにより、船や港について学ぶ機会とする。



会場で原画と絵本を観て学習



切り絵を使った絵本づくりに挑戦



朝日を背景に船が航行するシーンを作成中



客船が南国の島に向かうシーンを作成中



展示会場で切り絵の制作見本や絵本原画を鑑賞して柳原が得意とした切り絵の手法を学んだ後、参加者が船をモチーフとした物語の絵本制作に挑戦した。子どもたちは柳原の絵本を手本として、「船旅」などテーマをもって制作に取り組み、それぞれの想いを形にすることにより船や海に対する想いを深めることができた。

### 【参加者の声】

- 海はとてもひろくて、そこから世界とつながっているんだなと思った。(11歳)
- 海と船についてもっとしりたくなりました。(9歳)
- 柳原良平さんの切り絵の良さがわかった。船は単なる乗り物ではないということを感じました。(13歳)
- いつもとちがってじぶんなりに本をつくれた。うみは、自由なかんじだなと思いました。(10歳)
- 海の絵は、ぬっていない白い所が光っているように見えて、本当の海みたいだった。(13歳)

## 4. スタンプラリー「アンクル船長とさがそう 船のスタンプラリー」

【開催日時】平成29年5月20日(土)～7月9日(日)

【開催場所】尼崎市総合文化センター 館内5箇所

【参加者数】約2,000名

【活動内容・目的】

- 柳原が描いた船の絵とその役割が書かれたワークシートを持って館内を回ってスタンプを集める。
- 展示会場の外にスタンプを設置することにより、来館者に対して展示会への関心を誘うとともに、持ち帰って海や船について学んでもらうことを目指して実施した。



わかりやすい船の解説をつけたワークシートの内容は展示作品に関係しており、展示を楽しむツールとしても有効に活用してもらえる内容とし、帰宅後にも海や船への自主的な学習につなげることができるよう工夫した。

子どもが展示会を楽しめるよう、スタンプを押して楽しむ手法を取り入れたが、大人も多く参加し、会期終了日には予定枚数がほぼなくなるほど好評であった。

## 【事業全体のまとめ】

本展は尼崎にゆかりのある芸術家である柳原良平を回顧する展覧会として企画したが、本サポートプログラムに採用していただき「海の学び」を取り入れたことにより、特色ある展覧会として実施することが可能となった。柳原の作品を少年期から晩年にいたるまで一堂で紹介することにより、作品に対する評価とともに、「海と船と港」に対する生涯にわたる柳原の思いが鮮明となり本企画の趣旨が鑑賞者に理解されやすかったことが、アンケートのコメントからなどからも伺える。

本展では、当センターの美術展へ初めて来場した人が約65%を占め、本サポートプログラムによる新しい試みが、新規顧客獲得に大変ありがたい結果となった。

また、本サポートプログラムにより、広報（車内広告）、成果物（パンフレット、スタンプリナー等）を充実させることができ、鑑賞しやすい会場設営（テーマごとに壁面色を変える、資料用展示ケースの増設）などクオリティを上げることも可能となり、結果として来場者の高い満足度を生み出すこととなった。

また、本展を通じて地域の活動団体との連携が深まり、今後の活動の幅が広がるネットワークが築けたことも、大きな収穫となった。

## 3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 大阪市立中央図書館	作品・資料の借用
2. 横浜みなと博物館	作品・資料の借用、館長による講演会の開催
3. 京都市立芸術大学芸術資料館	作品の借用
4. 尼崎市立文化財収蔵庫	歴史資料の借用、記録写真のデータ提供
5. 尼崎市立地域研究史料館	記録写真のデータ提供
6. 尼崎南部再生研究室	取材、記事の掲載
7. NPO法人 尼崎21世紀の森 尼崎ネイチャークラブ 大阪湾広域臨海環境整備センター NPO法人 人と自然とまちづくりと	尼崎臨海地域の活動の資料提供
8. 株式会社商船三井	船の作品データの提供、柳原良平関連グッズの委託販売

## 4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. ミュージアムADトレイン2017春	阪神電車で巡る沿線ミュージアム2017 4/1(土)~5/18(木)
2. 梅田デジタルサイネージ	柳原良平 アンクル船長の夢 5/29(月)~6/25(土)
3. 「毎日新聞」	「柳原良平 アンクル船長の夢」展 4/21(金)
4. 「朝日新聞」	柳原良平 アンクル船長の夢 5/18(木)
5. 「朝日新聞」	「柳原良平 アンクル船長の夢」展 5/24(水)

6.「神戸新聞」	尼崎で柳原良平さん回顧展 「船長と行く“アートな船旅” 6/2（金）
7.「毎日新聞」	海・船・港 テーマ600点「アソルト」柳原さん展覧会 6/8 （木）
8.「産経新聞」	柳原良平 アンクル船長の夢 6/9（金）
9.「読売新聞」	トリスデザインに酔う 尼崎 柳原良平の作品展 6/28（水）
10. 市報あまがさき 2017年4月号	柳原良平 アンクル船長の夢 4/1（土）
11. 南部再生 2017年4月号	アンクル船長が県尼高で培った編集技術 4/30（日）
12. ウィズたからづか 2017年5月号	柳原良平 アンクル船長の夢 4/15（土）
13. ホット！ HANSHIN（阪神電鉄沿線 ニュース）2017年5月号	柳原良平 アンクル船長の夢 4/25（火）
14.「すすかけ」（兵庫県芸術文化協会ニ ュース）2017年5月号	柳原良平 アンクル船長の夢 4月
15.「あくしい」（尼崎商工会議所ニ ュース）2017年5月号	柳原良平 アンクル船長の夢 4月
16.「うなばら」2017年5月号（商船三 井 社内報）	展覧会「柳原良平 アンクル船長の夢」展開催のご案内 5/1 （月）
17.「いんいん」（朝日新聞コミュニ ティ誌）2017年5月号	柳原良平 アンクル船長の夢 5/7（日）
18.「ぱど」2017年5月12日号	柳原良平 アンクル船長の夢 5/12（金）
19.「ザ・淀川」2017年5月号	柳原良平 アンクル船長の夢 5/25（木）
20.「アサヒメイト」2017年6月号	柳原良平 アンクル船長の夢 6/1（木）
21.「まるごとくーぼん」（伊丹・尼崎北 版）2017年6月号	柳原良平 アンクル船長の夢 6/1（木）

以 上